

# たかまつ人口ビジョン

平成 27 年 10 月

高 松 市



# はじめに

我が国の総人口は、平成 20 (2008) 年から減少局面に転じるとともに、少子・高齢化が急激に進展しています。

本市の人口は、現在までのところ、わずかながらも増加を続けてきていますが、今後、長期的には、全国的な動向と同様に、人口減少が避けられない状況にあります。

人口減少が進み、少子・高齢化が進行することにより、生産年齢人口の減少による、経済規模の縮小や社会保障費の増加など、様々な分野に深刻な影響を及ぼすこととなります。

このようなことから、本市人口の現状を分析するとともに、市民等の意識・希望やたかまつ創生総合戦略懇談会からの意見を踏まえ、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すため、「たかまつ人口ビジョン」を策定しました。



# 目次

## 1 高松市の人口の現状

(1) 人口の推移	1
(2) 人口の自然増減の推移	2
(3) 合計特殊出生率の推移	2
(4) 有配偶率の推移	3
(5) 人口の社会増減の推移	5
(6) 年齢階級別の人口移動の状況	6
(7) 年齢階級別・男女別の人口移動の状況	7
(8) 人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響	9
(9) 産業別就業者数	10

## 2 高松市の人口の将来推計と分析

(1) 人口減少段階	11
① 全国の人口減少段階	11
② 高松市の人口減少段階	11
(2) 人口推計シミュレーション	12
(3) 高齢者人口比率の長期推計	12

## 3 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析

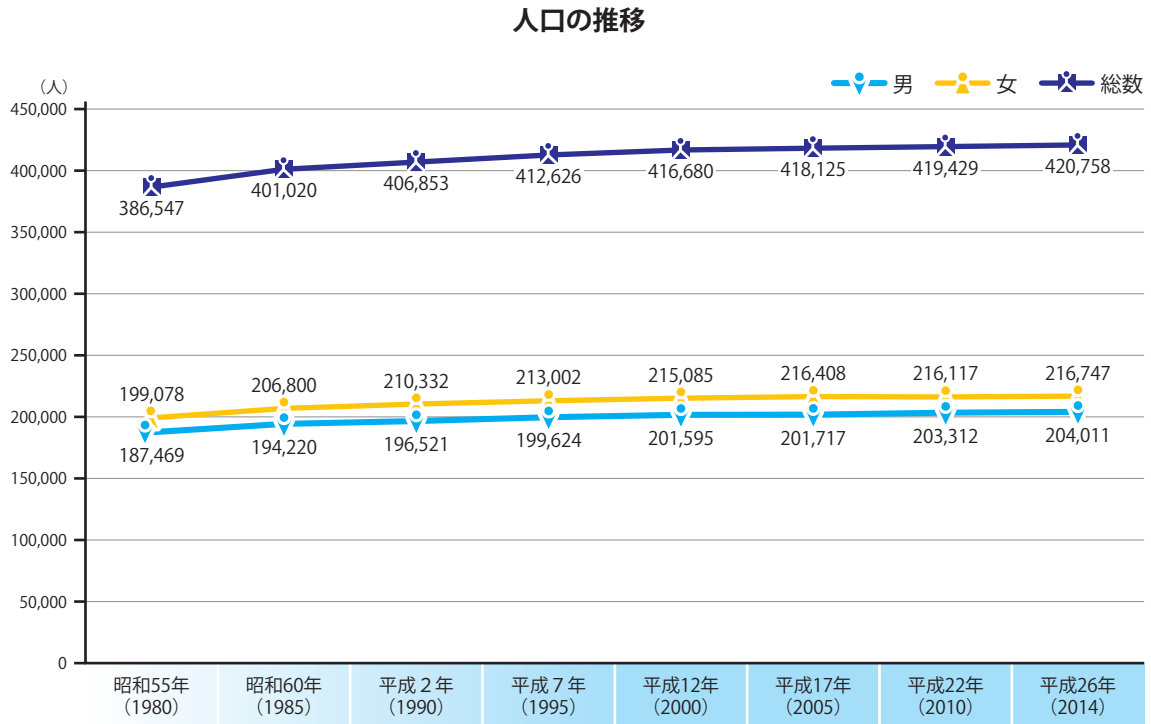
(1) 財政状況への影響	13
(2) 公共施設への影響	13

## 4 高松市の人口の将来展望

(1) 市民等の意識・希望	14
① 市民等アンケート	14
② たかまつ創生総合戦略懇談会の意見	17
(2) 目指すべき将来の方向	18
① 現状と課題の整理	18
② 本市の人口減少対策	19
(3) 本市人口の将来展望	20

## (1) 人口の推移

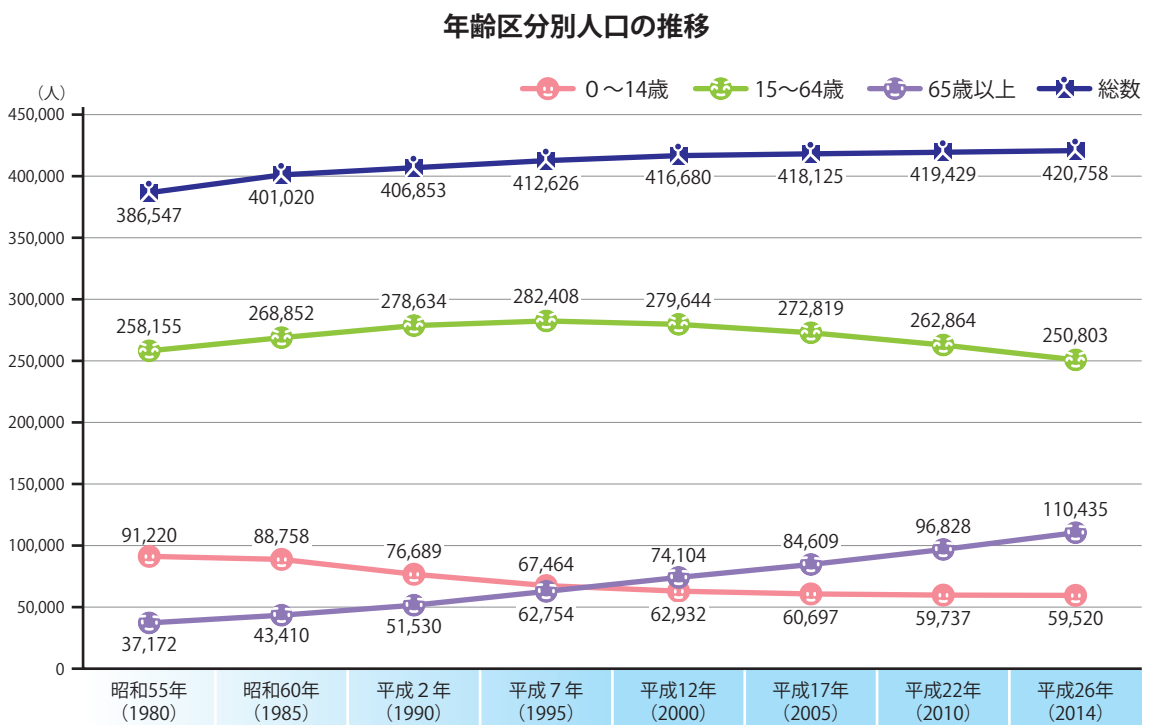
本市の人口は、平成26年現在では、増加傾向にあります。



※平成22年までは国勢調査、平成26年は推計人口。

なお、年齢区別の人口で見ると、生産年齢人口（15歳～64歳）は、平成7年をピークに減少に転じています。

また、年少人口（0歳～14歳）は、昭和55年以降、減少傾向にあります。一方で、高齢者人口（65歳以上）は増加傾向にあり、平成12年以降は、高齢者人口が年少人口を上回る状況になっています。



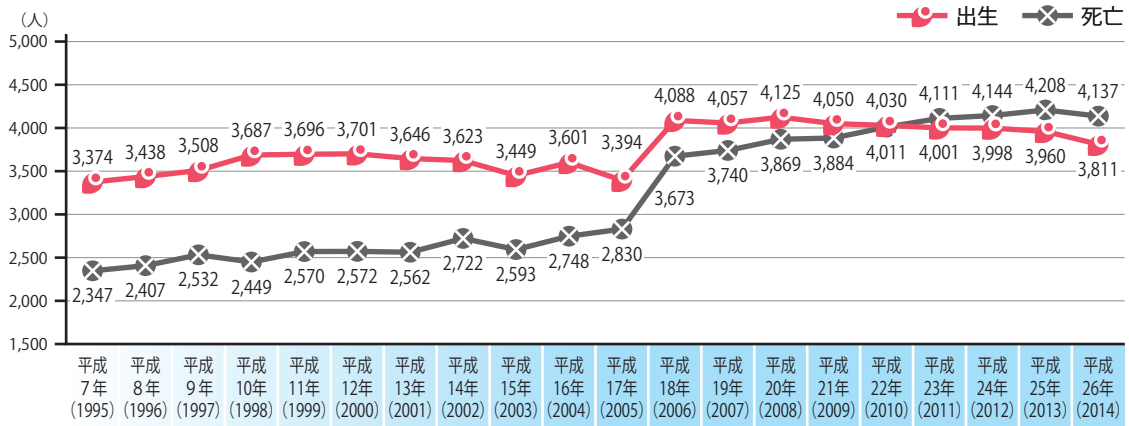
※平成22年までは国勢調査、平成26年は推計人口。

## (2) 人口の自然増減の推移

本市の人口の自然増減は、平成18年以降、出生数が減少傾向にあります。一方、死亡数は増加傾向にあり、平成23年以降は、死亡数が出生数を上回っています。

また、死亡数が増加傾向、出生数が減少傾向にあることから、「自然減」が拡大しています。

自然増減（出生数・死亡数）の推移



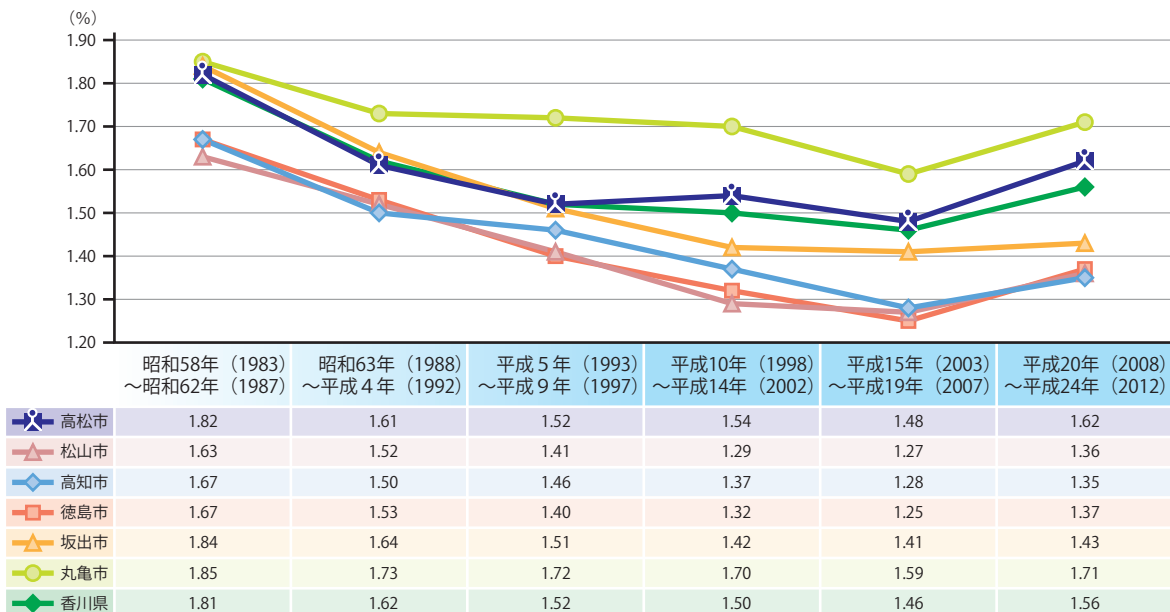
出典：高松市の年間人口動態

※平成17年以前の自然増減は、合併町を含まない、旧高松市のみの人数。

## (3) 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、平成15年～平成19年まで減少傾向にありましたが、その後、回復に転じ、平成20年～平成24年には1.62となっています。

合計特殊出生率の推移・比較



出典：厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

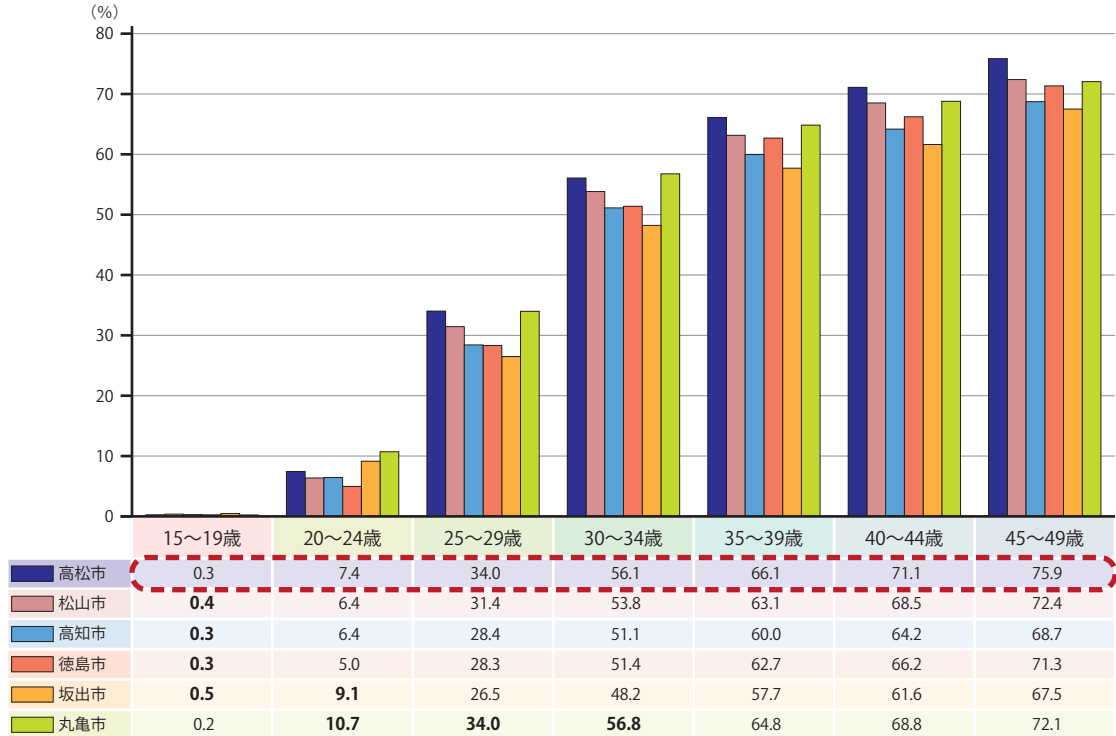
※合計特殊出生率：1人の女性が一生の間に生む子ども数に相当。

15歳～49歳の女性について、5歳階級別の出生率を算出し、さらに各階級分を合計して算出。

## (4) 有配偶率の推移

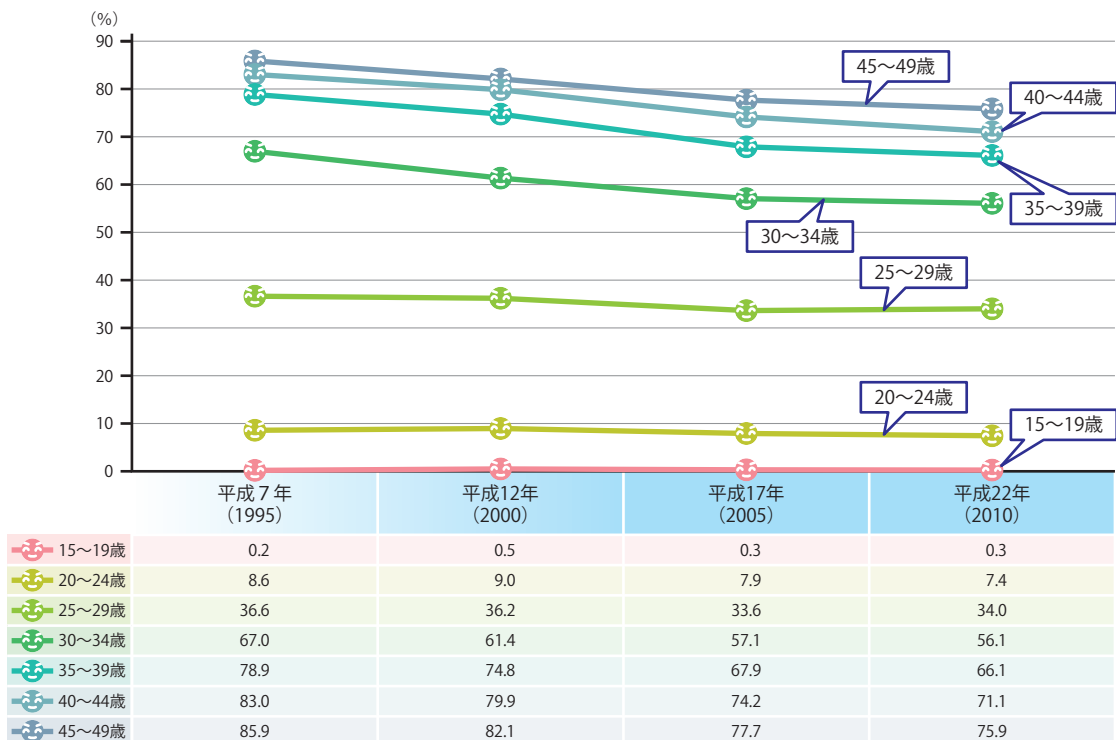
本市の男女の有配偶者の状況は、男性の有配偶率が全体的に低くなっています。また、男女とも、他都市と比較すると、高い水準になっているものの、低下傾向にあります。

### 男性の有配偶率の比較



出典：総務省統計局「平成22年国勢調査」

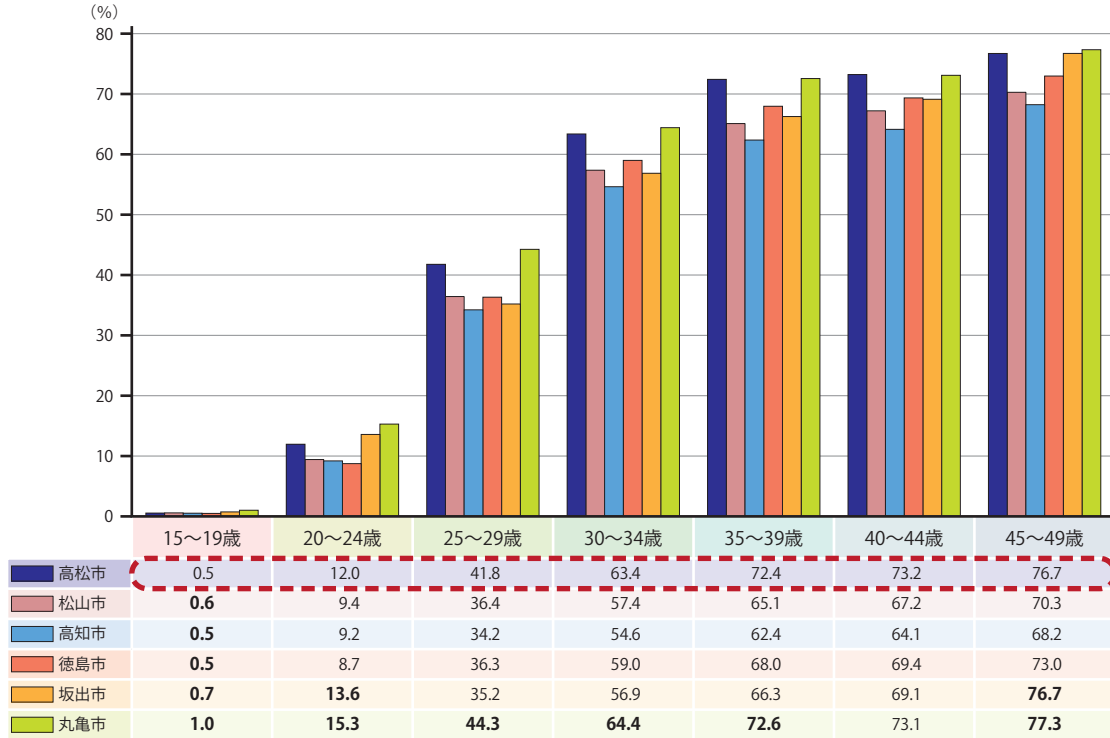
### 男性の有配偶率の推移



出典：総務省統計局「平成22年国勢調査」

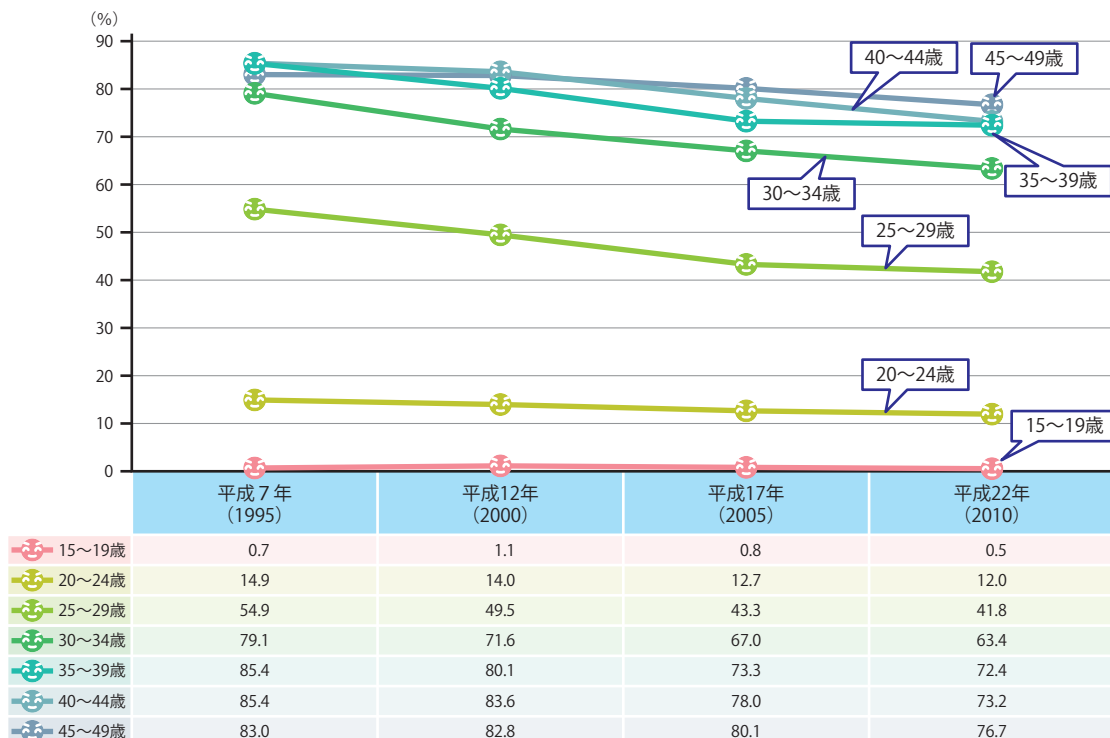


## 女性の有配偶率の比較



出典：総務省統計局「平成22年国勢調査」

## 女性の有配偶率の推移

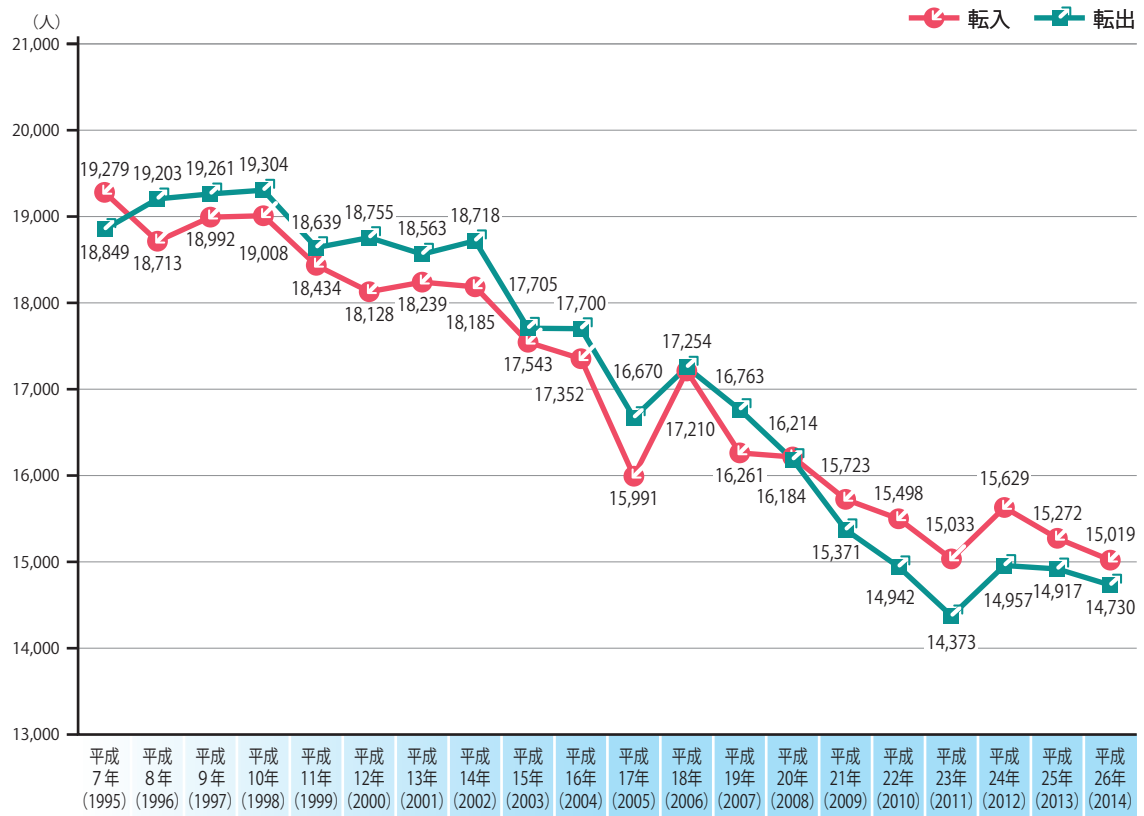


出典：総務省統計局「平成22年国勢調査」

## (5) 人口の社会増減の推移

本市の人口の社会増減は、転入者数、転出者数とも減少傾向にあります。平成8年以降、転出超過が続いていましたが、平成20年以降は転入超過に転じています。

社会増減（転入者数・転出者数）の推移



出典：高松市の年間人口動態

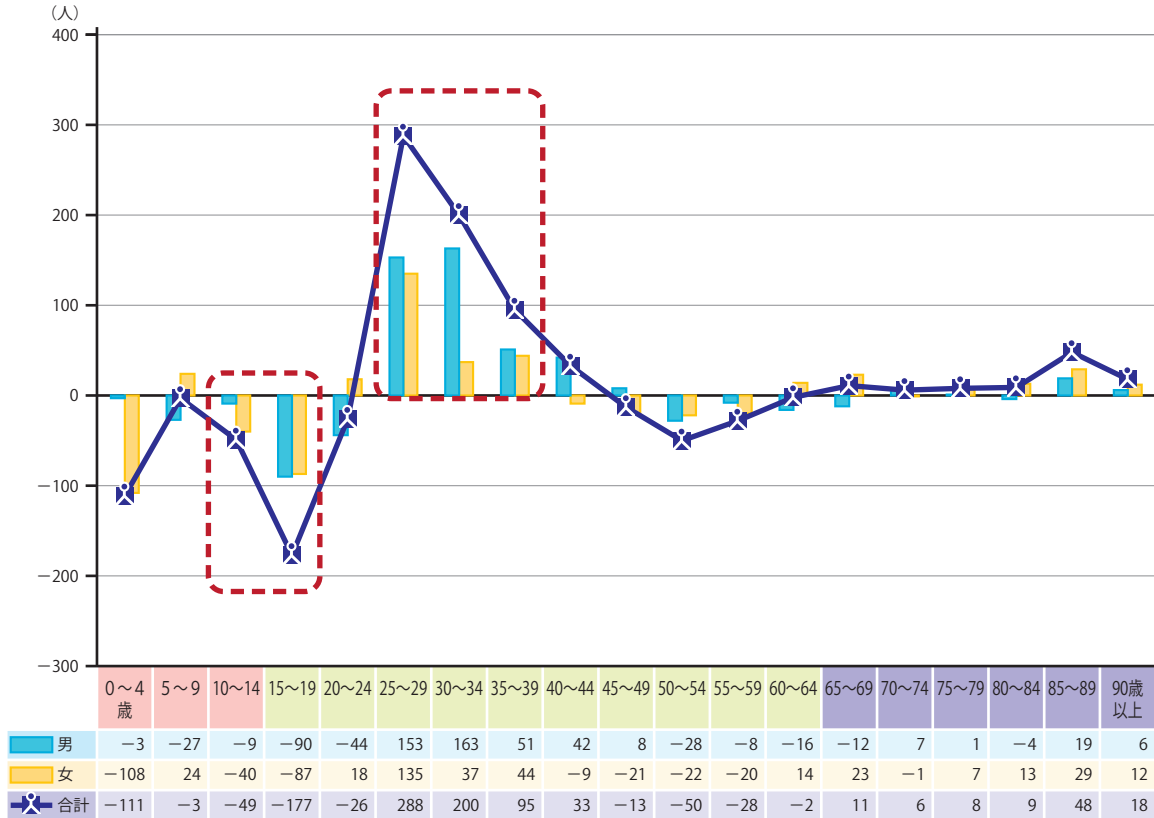
※平成17年以前の社会増減は、合併町を含まない、旧高松市のみの人数。

## (6) 年齢階級別の人口移動の状況

平成25年中の住民移動の状況を見ると、男女とも25歳～39歳の層で転入超過、0歳～4歳、15歳～19歳の層で転出超過になっています。

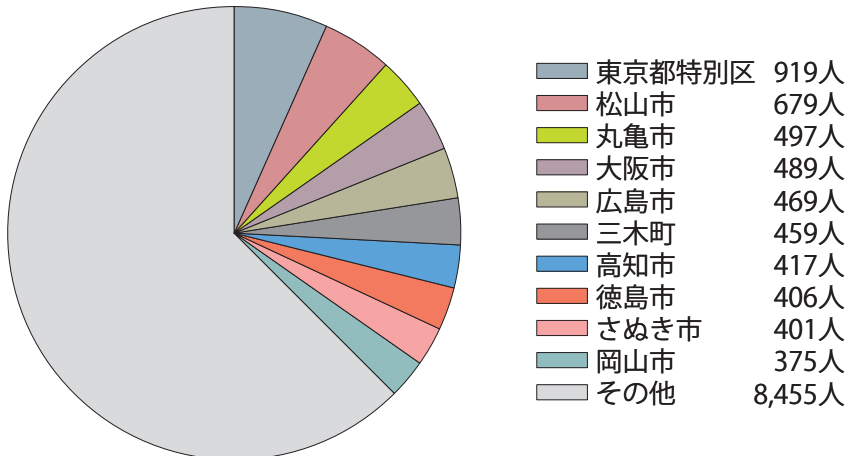
転出先では、東京都特別区が最も多く、次いで松山市、丸亀市となっています。

年齢階級別転入・転出の状況（平成25年）



出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」

転出先（市区町村）



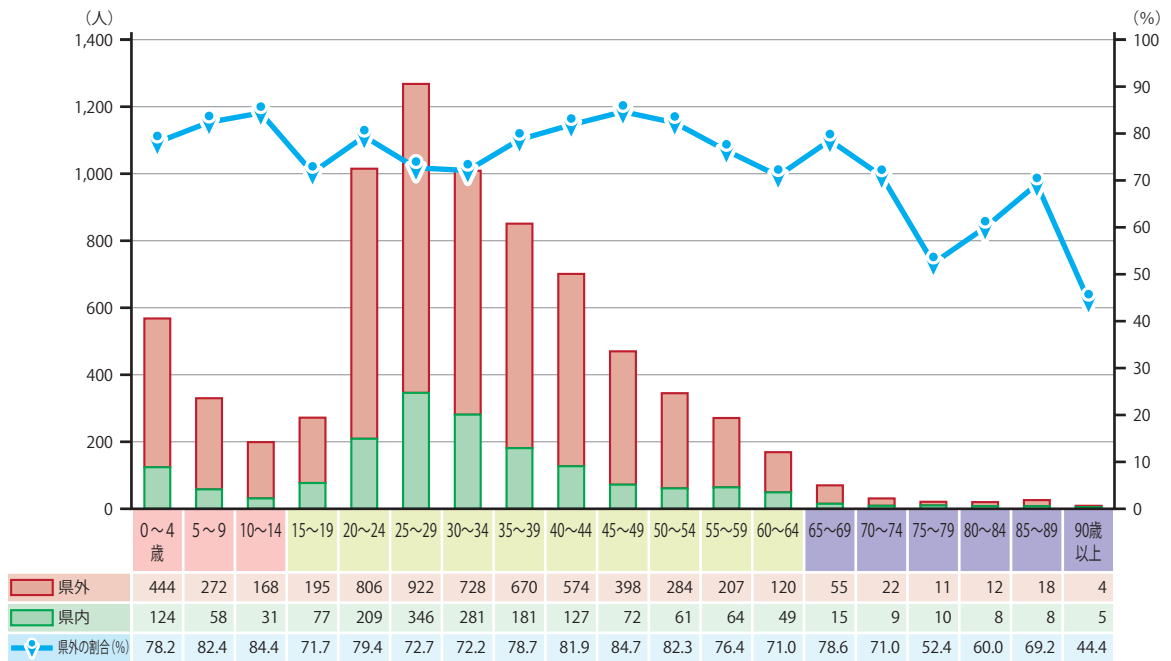
出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」

## (7) 年齢階級別・男女別の人口移動の状況

### ア 転入の状況

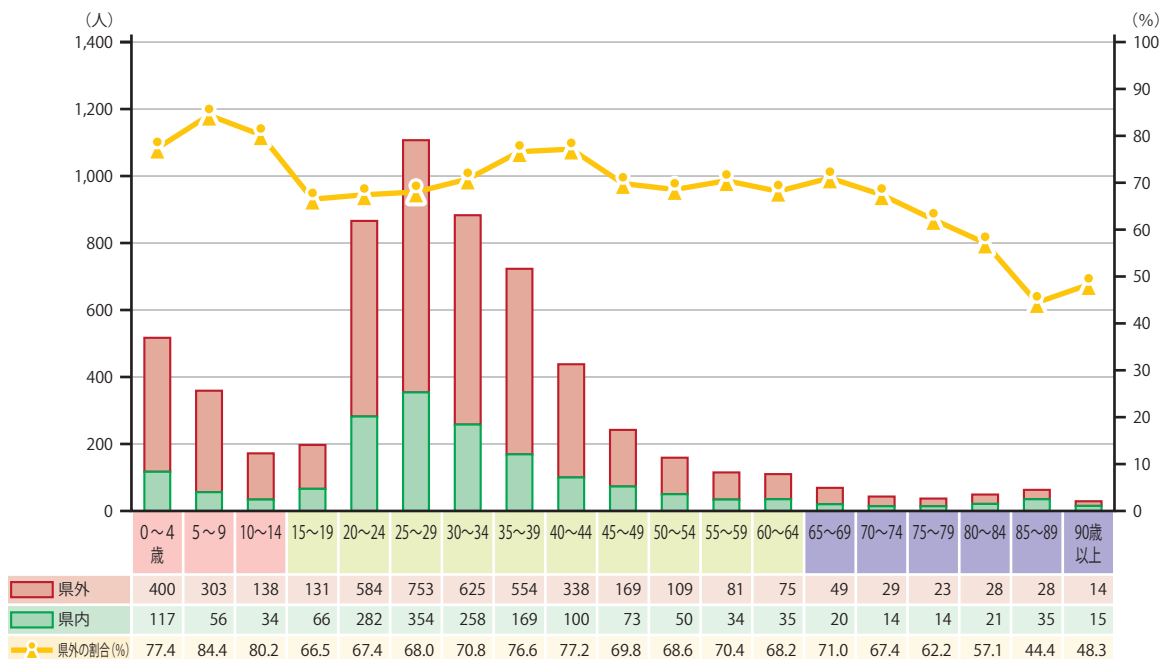
本市への転入は、男女とも20歳代、30歳代が多くなっています。また、転入元は県外が多く、ほとんどの年齢階級で70%を超えています。

男性の年齢階級別転入状況（平成25年）



出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」

女性の年齢階級別転入状況（平成25年）

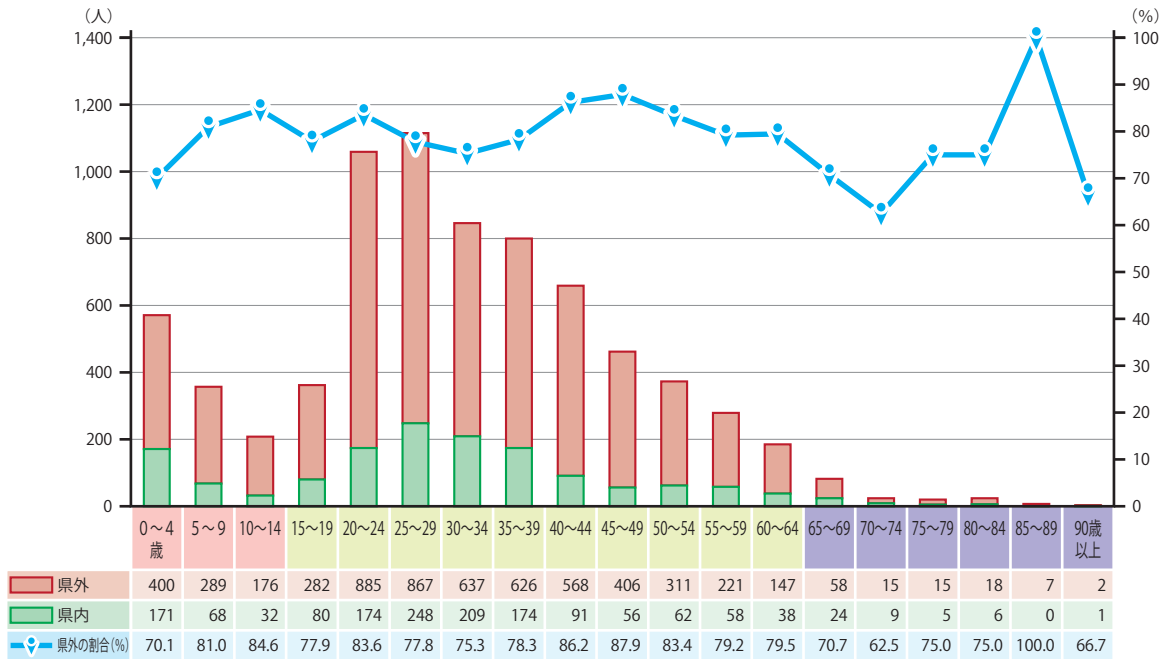


出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」

## イ 転出の状況

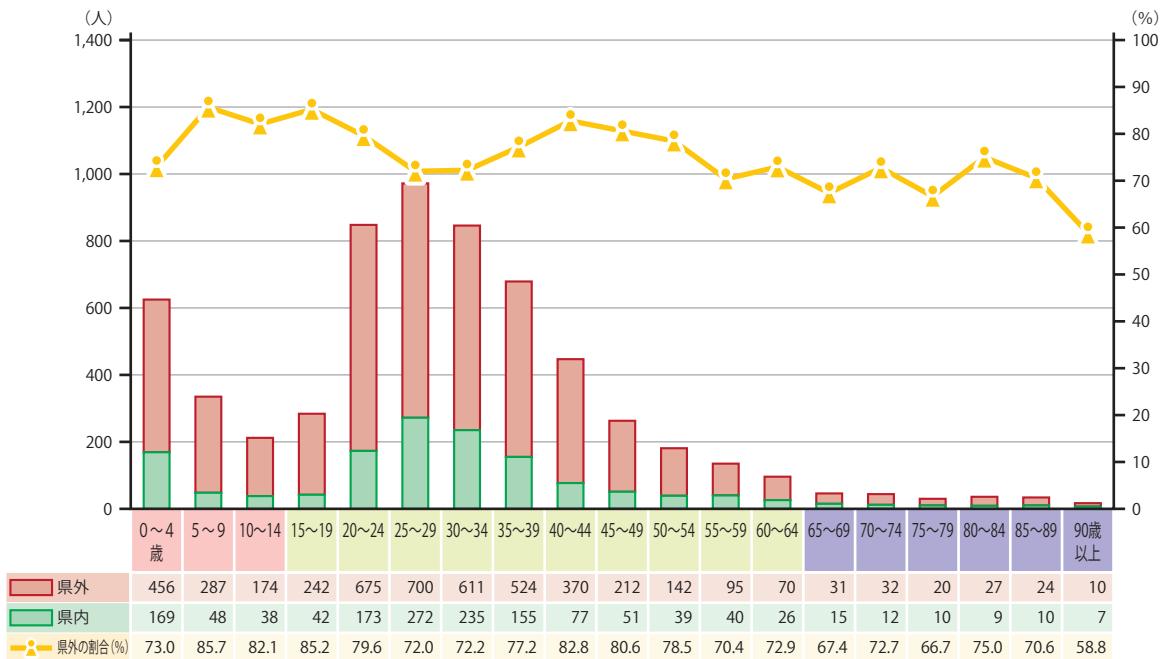
本市からの転出は、男女とも20歳代、30歳代が多くなっています。また、転出先は県外が多く、ほとんどの年齢階級で70%を超えています。

男性の年齢階級別転出状況（平成25年）



出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」

女性の年齢階級別転出状況（平成25年）



出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」

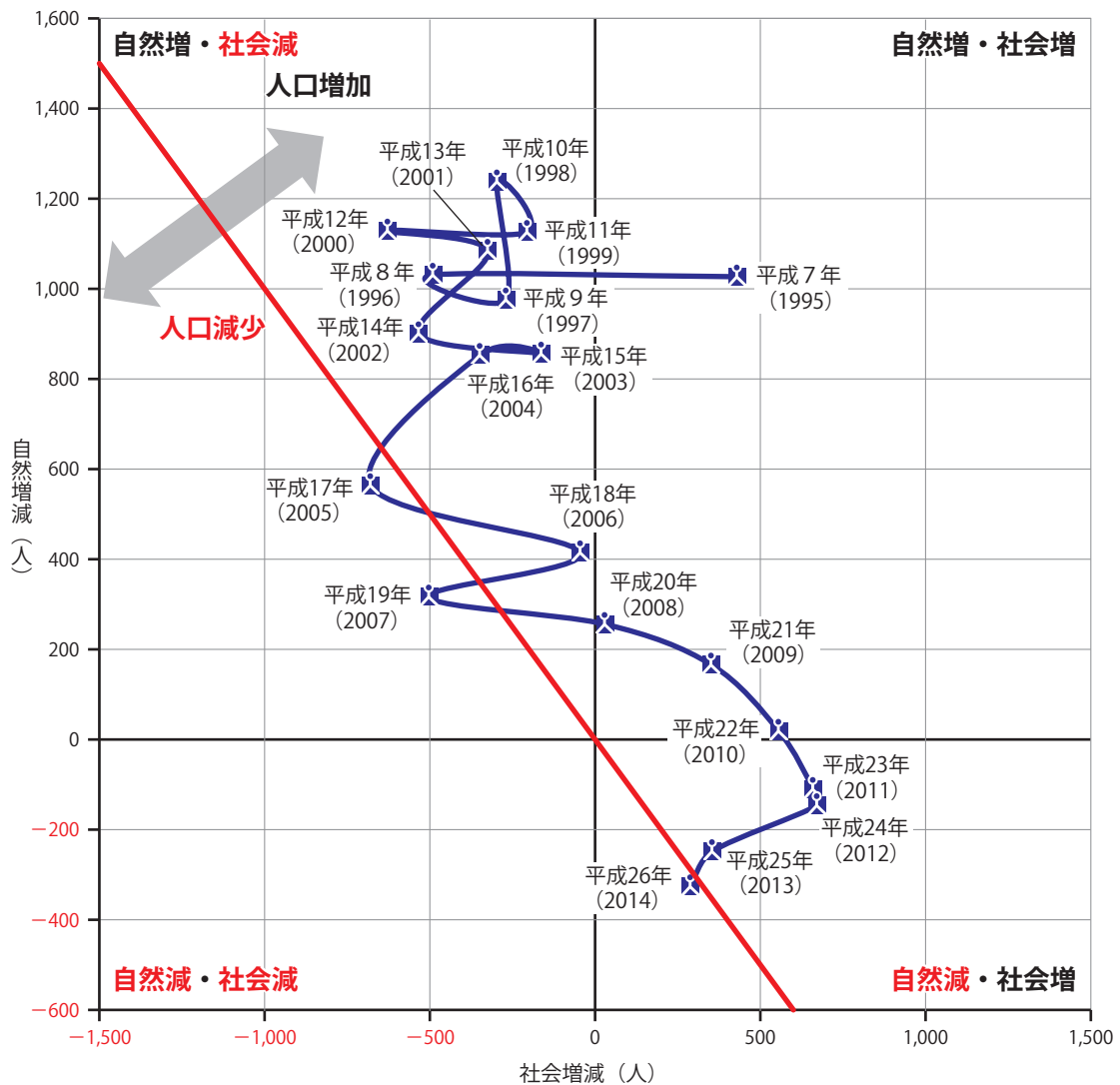
## (8) 人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

下記のグラフは、縦軸を自然増減、横軸を社会増減として、時系列に本市の総人口に与えてきた自然増減（出生数－死亡数）と社会増減（転入数－転出数）の影響を表しています。

自然増減を見ると、平成22年までは、差が減少していたものの、出生数が死亡数を上回っていましたが、平成23年以降は、死亡数が出生数を上回っています。

社会増減を見ると、平成8年から平成19年まで、転出者が転入者を上回る社会減となっていました。平成20年以降、転入が転出を上回る社会増となっています。

高松市総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響



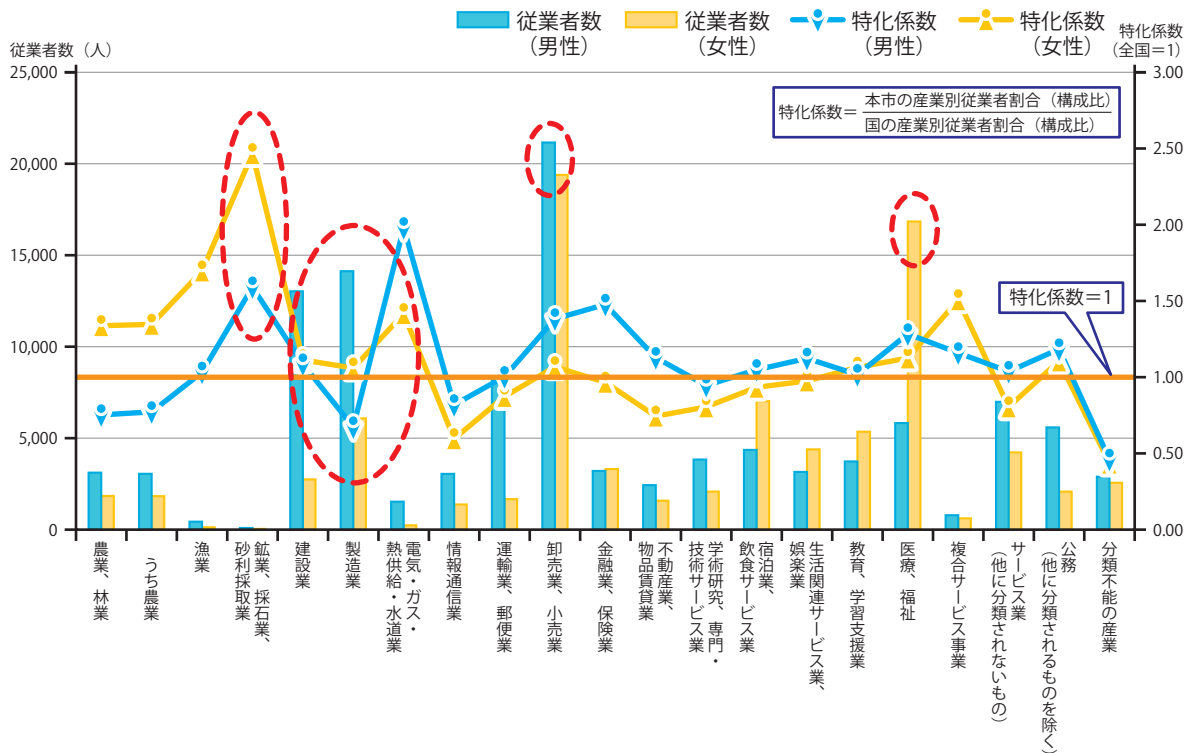
出典：高松市の年間人口動態

## (9) 産業別就業者数

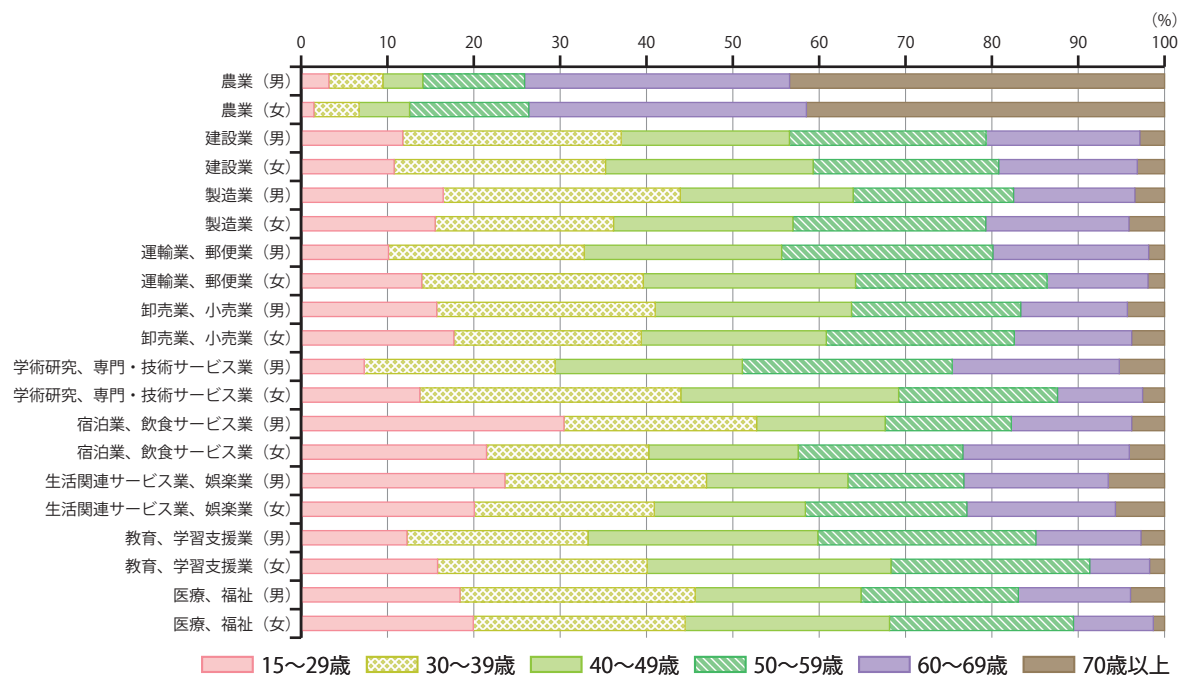
産業別の従事者数を見ると、男性は建設業、製造業、卸売業・小売業、女性は医療・福祉、卸売業・小売業への従事者が多くなっています。

また、男女共に、農業に従事している若年層の割合が低い一方で、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業は、若年層の割合が高くなっています。

男女別産業別従業者数、国との比較（平成22年国勢調査）



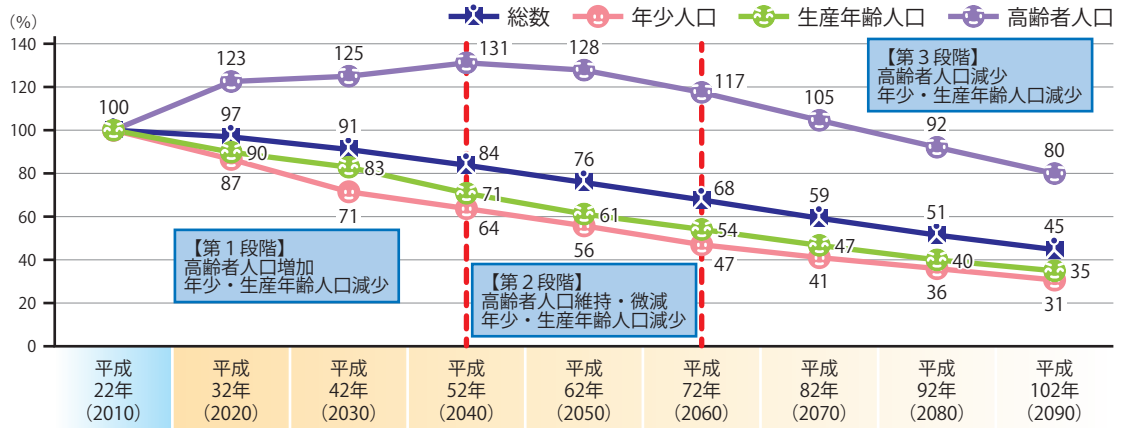
主な産業の男女別年齢別従業者割合（平成22年国勢調査）



# (1) 人口減少段階

## ① 全国の人口減少段階

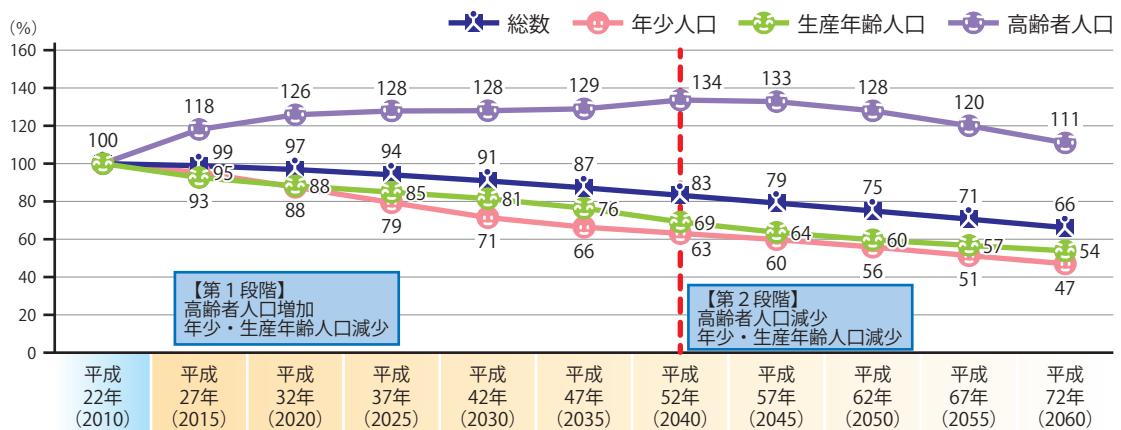
人口の減少段階（全国）



全国	平成22年 (2010)	平成52年 (2040)	平成72年 (2060)	平成102年 (2090)
	人口 (千人)	人口 (千人)	指数	人口 (千人)
総数	128,057	107,276	84	57,269
高齢者人口 (65歳以上)	29,484	38,678	131	23,568
生産年齢人口 (15~64歳)	81,735	57,866	71	28,540
年少人口 (0~14歳)	16,839	10,732	64	5,161

## ② 高松市の人口減少段階

高松市の人口減少段階（国立社会保障・人口問題研究所推計準拠）



	平成22年 (2010) (人)	平成52年 (2040) (人)	平成22年を100とした 場合の平成52年の指数	人口減少 段階
総数	419,429	349,117	83	1
高齢者人口	97,148	129,817	134	
生産年齢人口	263,980	182,526	69	
年少人口	58,299	36,773	63	



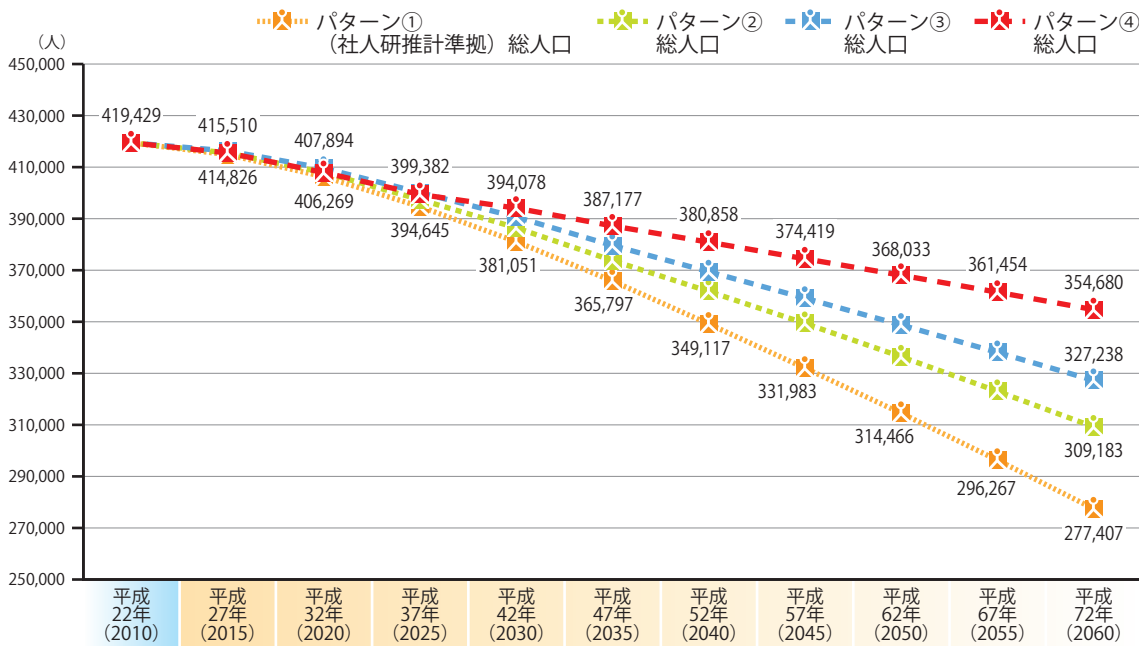
## (2) 人口推計シミュレーション

将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析のため、県推計に基づく4パターンの推計を実施しました。

### 県推計に基づく推計

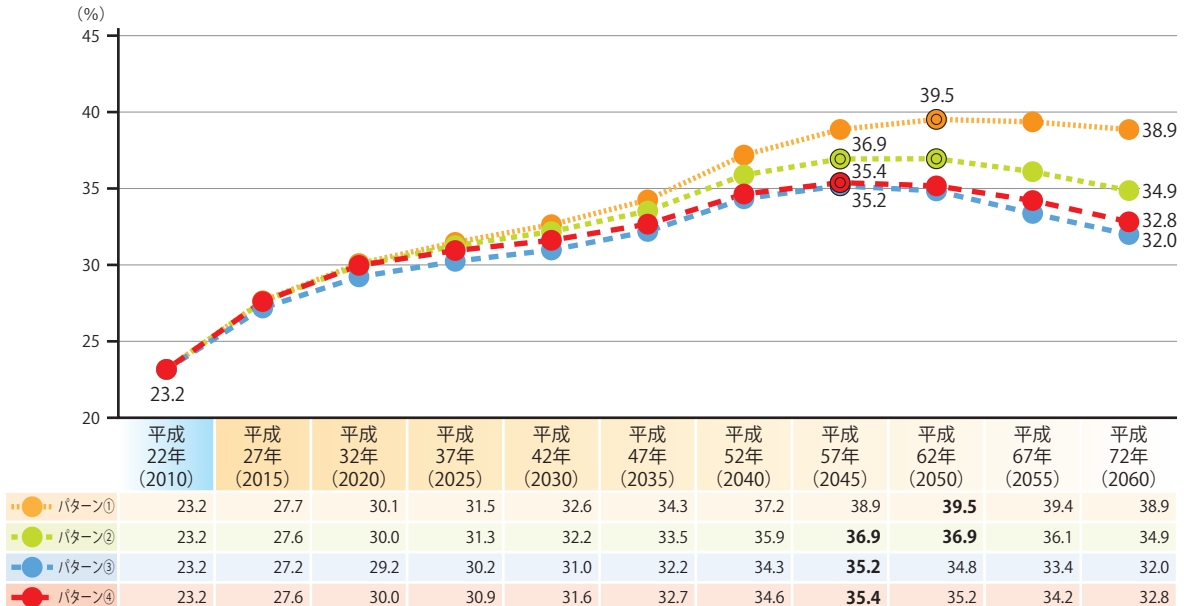
- パターン①：合計特殊出生率及び純移動率が、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した推計
- パターン②：合計特殊出生率（2030年1.8程度、2040年2.07程度）、純移動率が国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した推計
- パターン③：合計特殊出生率はパターン②と同様に推移し、2015年～2020年から、社会増減が均衡して推移するとした推計
- パターン④：合計特殊出生率はパターン②と同様に推移し、平成35（2023）年に社会増減が均衡し、以降、社会増（1,000人/年）の状況が続くとした推計

### 人口シミュレーション結果 県推計



## (3) 高齢者人口比率の長期推計

### 高松市の高齢者人口比率の長期推計（県推計での傾向分析）



## (1) 財政状況への影響

---

人口減少、少子・高齢化の進展による人口構成の変化は、本市の財政状況に影響を及ぼすことが予想されます。

年齢区分別の人口推計を見ると、生産年齢人口（15歳～64歳）だけでなく、次代の担い手となるべき年少人口（0歳～14歳）も減少し、納税者数の減少から、特に個人市民税が大きく影響を受けることとなり、市税収入が減少することが予想されます。

一方、高齢者人口（65歳以上）が増加することにより、医療及び介護の社会保障給付や高齢化に対応するための施策に要する経費が増大し、今後、この流れが加速していくことにより、本市の財政状況に大きく影響することが予想されます。

## (2) 公共施設への影響

---

本市では、多様な行政需要に対応するため、これまで小・中学校や福祉関係施設、庁舎など、多くの公共施設等を建設してきました。

これらの施設は、その多くが高度経済成長期からバブル期にかけて建設されたものであり、今後、老朽化の進展に伴い、建て替え等が一時期に集中することが予想され、その財政負担の軽減や年度ごとの平準化が課題となっています。

そのため、今後、人口減少、少子・高齢化の進展による人口構造の変化に伴う行政サービスの変容とあわせて、公共施設についても、保有総量や規模、配置の見直しのほか、既存施設の有効活用や新たなニーズへの対応など、その在り方についての検討が必要となっています。

## (1) 市民等の意識・希望

### ① 市民等アンケート

#### ア 市民等アンケートの概要

人口減少の克服と地域活力の向上を目指し、本市の実情に応じた目標や施策の基本的方向を検討するため、平成27年7月に下記の対象者に対し、アンケートを実施しました。

調査区分		市民	転出者	高校生	大学生
対象数（件）		1,500	500	—	—
回答数（件）		457	117	869	332
回答率（％）		30.5	23.4	—	—
主な調査項目	高松のまちについて	○	○	○	○
	高松での居住について	○			
	居住地の選択について	○	○	○	○
	就職・雇用について	○	○	○	○
	結婚・出産・子育てについて	○	○	○	○
	転出について				
	現在の居住地と高松市の比較について				
	高松市へのUターンについて				
	卒業後のことについて		○	○	○

## イ 市民等アンケート結果概要

## 満足度・重要度 【市民】【転出者】【高校生】【大学生】

満足度と重要度について、項目ごとに、該当するスコアの合計と回答数から求めた平均値により比較 (参考) 項目ごとの満足度と重要度のスコア

満足度	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	わからない	無回答・無効回答
重要度	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない		無回答・無効回答
スコア	2	1	0	-1	-2	0	0

項目	満足度				重要度			
	市民	転出者	高校生	大学生	市民	転出者	高校生	大学生
1 自然環境	0.40	0.84	0.45	0.40	(0.16)	(0.09)	0.01	(0.10)
2 緑の環境	0.34	0.81	0.44	0.36	(0.21)	(0.07)	(0.06)	(0.16)
3 生活衛生環境	0.21	0.62	0.44	0.33	0.44	0.43	0.49	0.44
4 住宅事情	0.04	0.46	0.32	0.25	0.36	0.32	0.29	0.35
5 就業の場	(0.27)	(0.01)	0.07	(0.02)	0.14	0.18	0.21	0.14
6 余暇活動・レジャー	(0.54)	(0.09)	(0.18)	(0.42)	(0.31)	(0.16)	0.02	(0.05)
7 買物の利便性	0.22	0.46	0.27	0.03	0.52	0.45	0.50	0.48
8 まちのにぎわい	(0.36)	(0.08)	0.06	0.07	(0.43)	(0.27)	(0.16)	(0.28)
9 公共交通機関の利便性	(0.74)	(0.71)	(0.04)	(0.28)	0.31	0.32	0.46	0.36
10 道路の整備状況	0.07	0.50	0.18	0.13	0.22	0.15	0.25	0.19
11 建物や街並みの景観	(0.02)	0.36	0.23	0.14	(0.34)	(0.38)	(0.08)	(0.16)
12 子育て環境	(0.16)	0.18	0.14	0.05	0.35	0.40	0.41	0.19
13 教育水準	(0.05)	0.28	0.17	0.12	(0.10)	0.03	0.03	(0.12)
14 生涯学習の機会	(0.09)	(0.07)	0.15	0.11	(0.42)	(0.38)	(0.20)	(0.31)
15 芸術文化活動	0.02	0.10	0.24	0.25	(0.56)	(0.66)	(0.48)	(0.50)
16 スポーツ活動	(0.10)	0.03	0.17	0.09	(0.44)	(0.62)	(0.23)	(0.21)
17 医療・保健	(0.03)	0.23	0.27	0.31	0.58	0.57	0.51	0.43
18 福祉	(0.19)	0.03	0.18	0.15	0.28	0.09	0.24	0.20
19 交通安全対策	(0.61)	(0.51)	(0.18)	(0.39)	0.24	0.03	0.35	0.27
20 災害への備え	(0.32)	(0.19)	(0.04)	(0.10)	0.51	0.31	0.52	0.40
21 公共サービス	(0.22)	0.03	0.12	0.06	0.17	0.20	0.26	0.23
22 近所づきあい	(0.07)	0.13	0.25	(0.10)	(0.11)	(0.14)	0.07	(0.10)
23 地域の人々の交流	(0.11)	0.05	0.21	0.04	(0.45)	(0.38)	(0.13)	(0.08)

上位3位 下位3位 ※ ( ) はマイナスの数値

## 出産しやすい環境に必要なと思うもの

(複数選択)

市民

選択肢	回答数	割合
妊娠・出産時の経済的負担の軽減	232	50.8%
産休・育休制度の充実	226	49.5%
妊娠・出産に関する相談・地域のサポート体制の充実	86	18.8%
支援は必要ない	6	1.3%
その他	16	3.5%

## 現在の子どもの数

市民

選択肢	回答数	割合
0人	187	40.9%
1人	83	18.2%
2人	121	26.5%
3人	45	9.8%
4人以上	7	1.5%
無回答・無効回答	14	3.1%
合計	457	100.0%

## 理想的な子どもの数

市民

選択肢	回答数	割合
0人	15	3.3%
1人	36	7.9%
2人	238	52.0%
3人	143	31.3%
4人以上	16	3.5%
無回答・無効回答	9	2.0%
合計	457	100.0%

## 「現在の子ども数」が「理想的な子ども数」より少ない理由（複数選択）

市民

選 択 肢	回答数	割 合
子育てにはお金がかかる	77	16.8%
仕事と子育ての両立が難しい	43	9.4%
高齢出産になる	34	7.4%
ほしいけれどもできない	32	7.0%
高等学校や大学教育にお金がかかる	31	6.8%
子育てを手助けする人がいない	22	4.8%
育児の心理的・肉体的負担が大きい	19	4.2%
保育園や幼稚園にお金がかかる	19	4.2%
仕事や趣味を優先したい	15	3.3%
健康上の理由	15	3.3%
自分や夫婦の生活を大切にしたい	9	2.0%
住居が狭い	8	1.8%
子どもの医療費の経済的負担が大きい	6	1.3%
いじめなど子どもの成長に不安がある	6	1.3%
配偶者の協力が得られない	4	0.9%
職場の理解がない	2	0.4%
その他	39	8.5%

## 子育てしやすい環境に必要なと思うもの

（複数選択）

市民

選 択 肢	回答数	割 合
子どもの人数に応じた経済的な支援	195	42.7%
保育所などの預け先の施設の充実	192	42.0%
子育てがしやすい税制や社会保障の実施	170	37.2%
育児休暇制度の充実（期間の延長など）	138	30.2%
長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、育児時間の確保	121	26.5%
地域ぐるみで子育てができる環境づくり	93	20.4%
子育てに関する相談、サポート体制の充実	85	18.6%
男性の育児休暇取得の推奨	76	16.6%
育児や住宅に対する資金貸与や補助支援	67	14.7%
企業による育休明けの働き方に関する支援	56	12.3%
育児に関するセミナーなどの開催	12	2.6%
支援は必要ない	4	0.9%
その他	22	4.8%

## 卒業後の居住予定地

高校生  
大学生

選択肢	高校生		大学生	
	回答数	割合	回答数	割合
高松市内	226	26.0%	75	22.6%
高松市以外の県内	38	4.4%	21	6.3%
県外	298	34.3%	101	30.4%
わからない	257	29.6%	133	40.1%
無回答・無効回答	50	5.7%	2	0.6%
合 計	869	100.0%	332	100.0%

## 卒業後の居住予定地の選択理由（複数選択）

高校生  
大学生

選択肢	高校生		大学生	
	回答数	割合	回答数	割合
進学希望の学校があるから	314	36.1%	30	9.0%
希望する就職先の企業があるから	124	14.3%	61	18.4%
魅力のある都市があるから	108	12.4%	34	10.2%
自分の出身地であるから	122	14.0%	108	32.5%
両親（親戚）が住んでいるから	127	14.6%	65	19.6%
生活費が安いから	35	4.0%	3	0.9%
生活するうえで利便性が高いから	114	13.1%	61	18.4%
その他	52	6.0%	40	12.0%

## ② たかまつ創生総合戦略懇談会の意見

### ア たかまつ創生総合戦略懇談会の概要

「たかまつ人口ビジョン」及び「たかまつ創生総合戦略」の策定に当たり、幅広い年齢層からなる市民を始め、産業界、国の行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディア（産官学金労言）等の分野の委員で構成する「たかまつ創生総合戦略懇談会」を設置し、それぞれの立場から意見をいただきました。

(ア) 委員数 25人

(イ) 懇談会日程

第1回	平成27年6月16日（火）
第2回	平成27年7月28日（火）
第3回	平成27年9月7日（月）
第4回	平成27年9月25日（金）

### イ 懇談会における意見

「『高松らしさ』と具体的な施策」をテーマに、意見交換等を行いました。

そのうち、『高松らしさ』についての主な意見は、次のとおりです。

高松市の強み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海に面し、山も身近にあり、自然が豊かである</li> <li>・中心市街地から島までが近く、アクセスが良い</li> <li>・平野が多く、また災害が少なく温暖で住みやすい</li> <li>・外国人観光客が多い</li> <li>・国際的な芸術関係イベントがある（瀬戸内国際芸術祭、高松国際ピアノコンクール）</li> <li>・スーパーなどが多く買い物の利便性が高い</li> <li>・中国、台湾等の航空便がある</li> <li>・スポーツの裾野が広い</li> <li>・コンパクト・エコシティ特区により農業への取組がしやすい</li> <li>・優良な企業がたくさんある</li> <li>・フェリー、JR、ことでんが集結しているターミナルがある</li> <li>・交通のアクセスが良くスポーツツーリズムに適している</li> <li>・公共交通の利用促進を図っている</li> <li>・よそ者を受け入れる風土がある</li> </ul>
高松市の弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち家志向や教育費の負担の面で無理をして働いている人がいる</li> <li>・自分たちの住んでいるまちの良さに気がついていない</li> <li>・人口減少に対する危機感を持っていない</li> <li>・食事をする場所や宿泊施設が少ない</li> <li>・公共交通機関が充実していない</li> <li>・県外の大学に進学すると帰ってこない</li> <li>・高校が市内に多数あり、専門も多岐にわたっているが、それを引き継ぐ大学がない</li> <li>・若者が県内の優良な会社を知る機会が少ない</li> </ul>

## (2) 目指すべき将来の方向

### ① 現状と課題の整理

#### ア 人口分析・推計からの考察

	総人口	少子・高齢化
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然減の拡大（自然増減）</li> <li>・継続した転入超過（社会増減）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計特殊出生率の回復（自然増減）</li> <li>・生産年齢人口の減少（社会増減）</li> <li>・15～19歳の転出超過（社会増減）</li> </ul>
推計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会増減の影響が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生率の向上が高齢化を抑制する</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入抑制が起こった場合の人口減少リスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計特殊出生率の向上</li> <li>・生産年齢人口の確保</li> <li>・若年層の転出抑制</li> </ul>

#### イ 市民アンケート結果からの考察

調査項目	現状	課題
高松のまちについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境、生活環境への満足度が高い。</li> <li>・買い物の利便性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関に関する満足度が低い。</li> <li>・交通安全に対する満足度が低い。</li> </ul>
出産・子育てについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て環境、教育環境に対する満足度は、中程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所整備、経済的支援を求める回答が多い。</li> </ul>
高校生・大学生の卒業後の居住予定地について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校卒業後の居住予定地として、高松市との回答は25%程度にとどまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある進学先や就職先が居住の意思決定上、優先される。</li> </ul>

#### ウ たかまつ創生総合戦略懇談会の意見からの考察

「高松らしさ」をテーマとした現状認識では、本市には、魅力的な立地条件、多くの優良企業、アートなど、市外に対しても発信できる魅力が数多くあります。

しかしながら、本市の魅力に住んでいる者が認識していなかったり、優良企業を若者が十分に認識していないことなど、本市が持つ魅力が十分にいかしきれていないことや、危機感の不足（当事者意識の不足）が課題として挙がりました。

また、人口減少対策の推進に当たっては、複合的、戦略的、集中的に施策を実施するとともに、地域間連携を図ることも課題として挙がりました。

## ② 本市の人口減少対策

現状と課題の整理を踏まえ、総合戦略の策定に当たっては、本市人口の将来展望に掲げる目標の達成を目指し、海や山の身近で豊かな自然と、まちにおける様々な都市機能がコンパクトにまとまった、本市の特性をいかした「高松ならではの」総合戦略を、実効性のある人口減少対策として取りまとめます。

### 『高松ならではの主な取組』

- (1) 瀬戸内海や史跡・温泉など、本市の特色ある地域資源をいかしながら、コンベンション施設を効果的に活用することにより、MICE誘致を推進することで、交流人口を増やします。
- (2) 高等学校卒業後の人材流出を抑制し、本市への定着を図るための大学等の魅力向上への取組や、女性の就労に対するサポートなど働きやすい職場づくりに対する支援により、特に、若者から選ばれ、移り住みたいと思える地域づくりを推進することで、人口の社会増を、更に促進します。
- (3) 妊娠・出産・子育てなどへの不安を解消するとともに、多子世帯の保育料の減免など各種の経済的な支援により、子どもを生き育てやすいまちづくりを推進することで、人口の自然減を抑制します。
- (4) 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、医療と介護などが一体的に切れ目なく提供できるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進することで、人口減少社会に適応します。
- (5) 将来においても活力を失わず、市民がいきいきと暮らせるコンパクトで持続可能な都市を構築するほか、地域コミュニティを軸としたまちづくりや、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進することで、人口減少社会に適応します。



### (3) 本市人口の将来展望

国及び県の長期ビジョン並びに本市人口ビジョンの策定に当たり実施した分析や市民等へのアンケート調査等を踏まえ、今後、本市が目指すべき将来の人口を設定します。

#### 『目指すべき将来の人口』

##### 目標人口：2060年に36万人程度を目指します。

##### ① 合計特殊出生率

合計特殊出生率は、次の仮定を置いて推計しています。

- ・平成42（2030）年に1.86
- ・平成52（2040）年に人口置換水準2.07

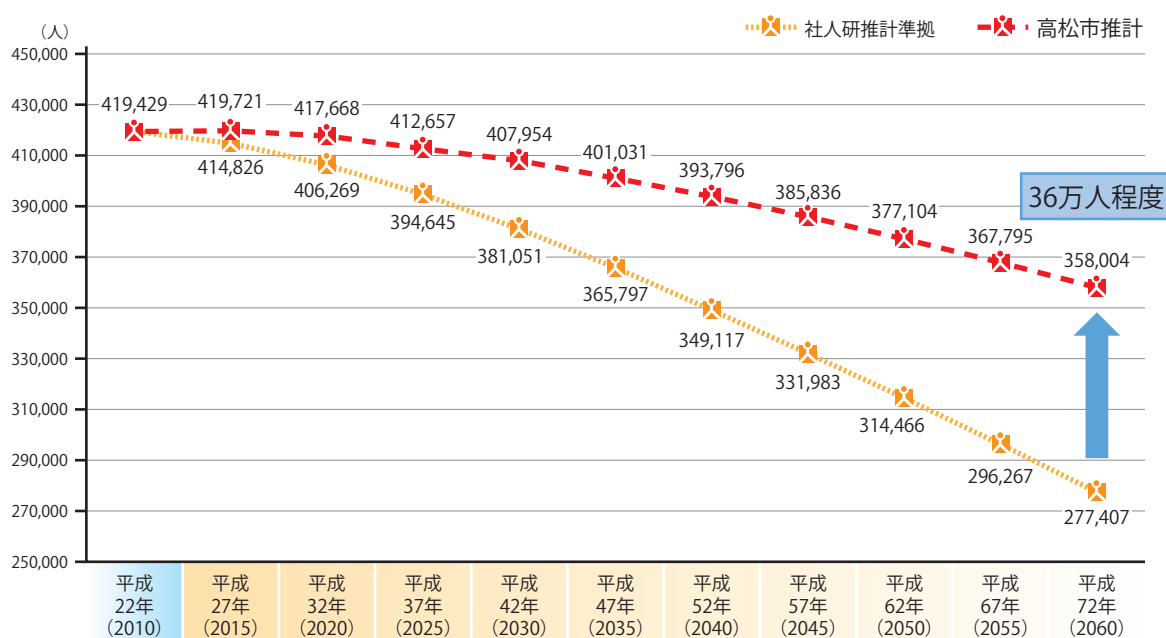
【参考】国・県の長期ビジョン等における合計特殊出生率

- ・平成42（2030）年に1.80
- ・平成52（2040）年に人口置換水準2.07

##### ② 純移動率

純移動率は、男女別・5歳別の直近値（平成17年と平成22年の国勢調査人口ベース）が今後も続くと仮定し、その中で、男性は10歳代後半から20歳代前半の純移動率が均衡し、女性は10歳代後半から20歳代前半、10歳代前半から10歳代後半の純移動率が均衡するとして推計しています。

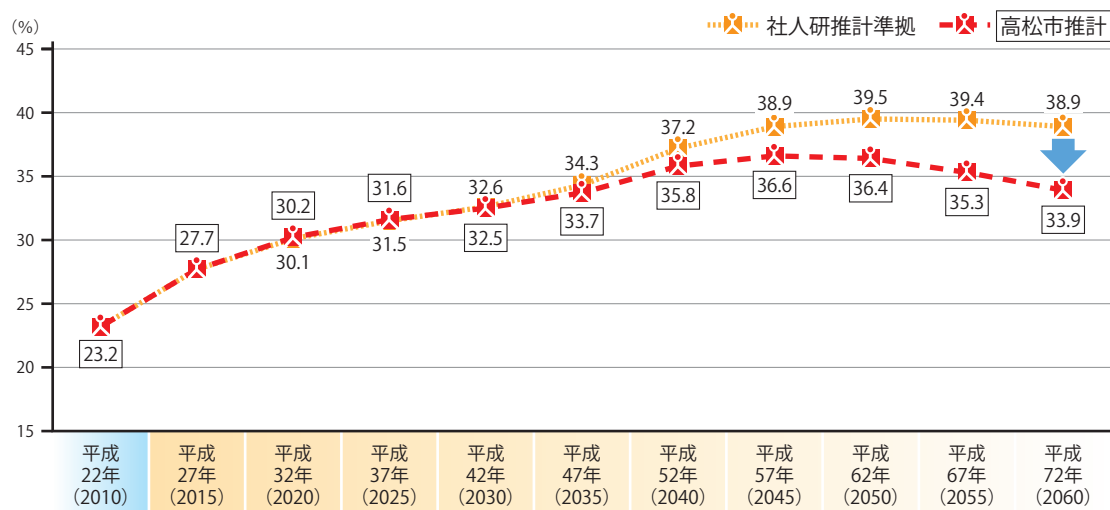
高松市の人口推移と長期的な見通し



本市の高齢化率は、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、平成72（2060）年時点で38.9%程度まで上昇する見込みです。

しかし、人口減少対策となる効果的な施策を着実に実施し、合計特殊出生率及び社会動態の増加を図り、目標人口を実現すれば、平成72（2060）年時点で33.9%程度まで改善することが見込まれます。

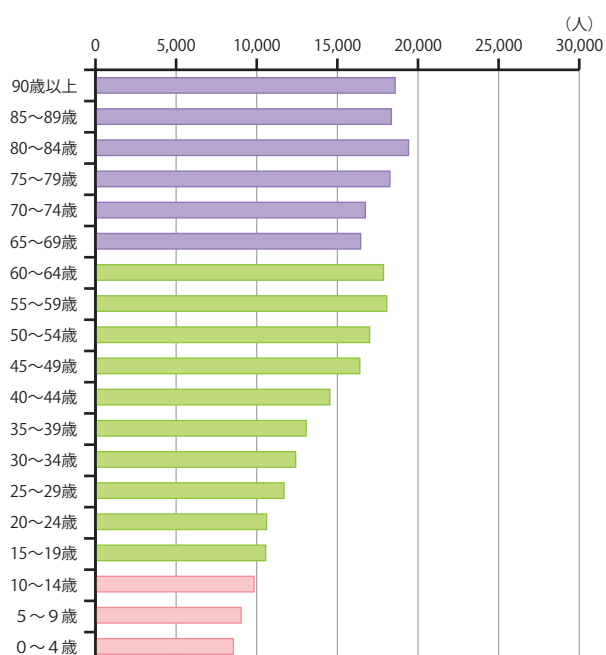
高松市の高齢化率の推移と長期的な見通し



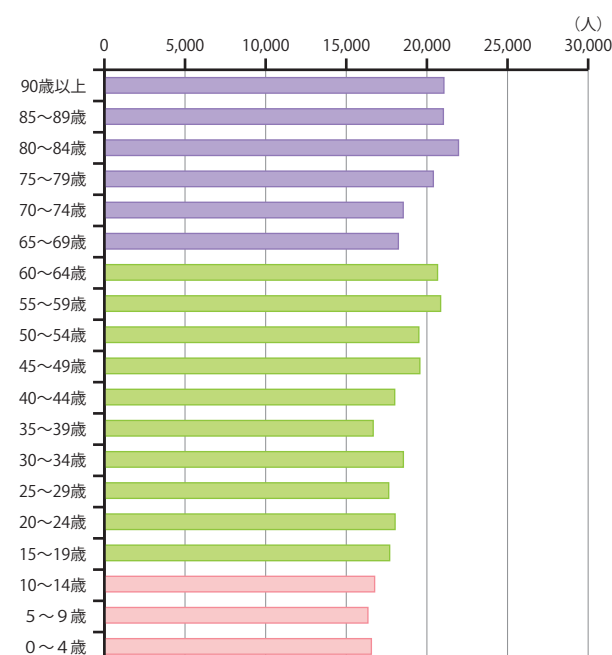
また、年齢階級別の人口も、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、高齢者人口と年少人口に大きな差がありますが、目標人口では、各年齢階級の人口が均等に近づきます。

目標人口を実現することで、人口構成にも大きな改善が見込まれ、本市における持続可能な社会の実現にも寄与することが期待できます。

国立社会保障・人口問題研究所推計による  
平成72（2060）年の人口構成



本市目標人口による  
平成72（2060）年の人口構成



## たかまつ人口ビジョン

編集・発行 高松市市民政策局政策課

〒760-8571 高松市番町一丁目8番15号

電話 087-839-2135 FAX 087-839-2125

ホームページアドレス <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp>



たかまつ人口ビジョン